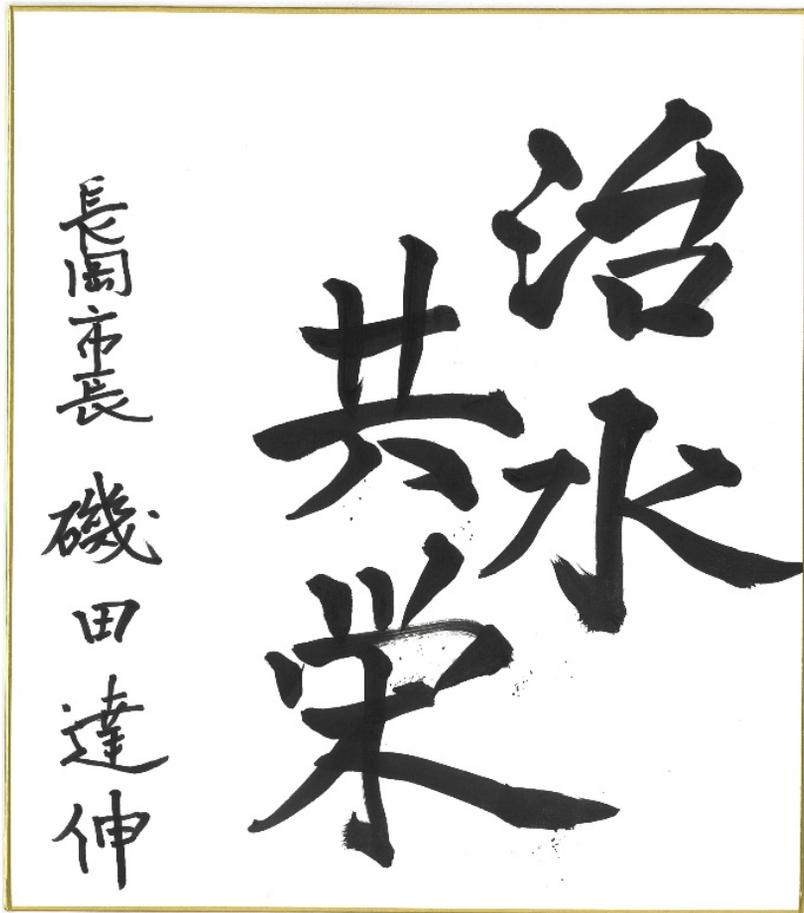


新潟市長 中原八一

「恵水萬代」 読み:けいすいばんだい

大河津分水と関屋分水の治水によって流域では安全が確保され、洪水などの災害をうけることなく、水に親しみ、水の恵みを受けて繁栄することができました。この豊かな環境が将来にわたって続いていってほしいという願いを込め「恵水萬代」としました。

日本一の大河信濃川の最下流部に位置する新潟市の「萬代橋」や「やすらぎ堤」などの水辺が、多くの方から親しまれているのは、治水のおかげであり感謝しています。



長岡市長 磯田達伸

「治水共栄」 読み:ちすいきょうえい

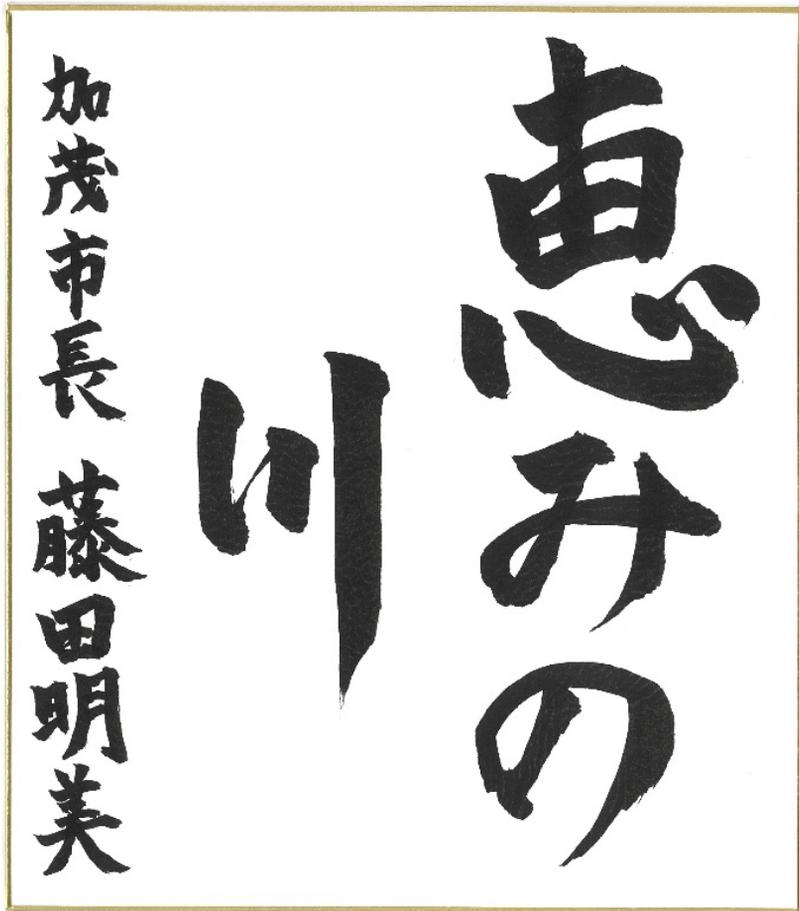
令和元年の信濃川の洪水を機に、大河津分水の100年間の治水の意義は極めて大きくなりました。大河津分水があるからこそ信濃川の洪水を流すことができている、今ほど治水の意味・価値・役割が注目されているときはないです。一方で、長岡花火は信濃川のほとりで打ち上げることに意味があり、とても評価されています。治水と共に栄える地域・流域であってほしいという願いを込めました。



三条市長 滝沢亮

「和泥合水」 読み: わでいがっすい

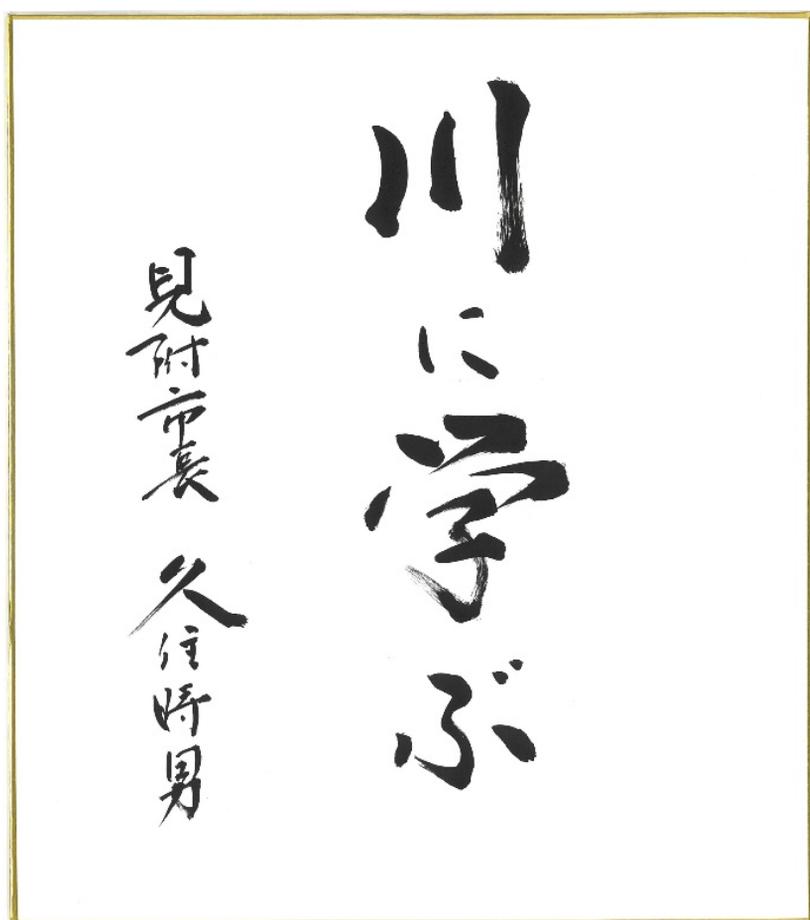
仏教の言葉で、自分の身を挺^{てい}して・犠^ぎ牲^{せい}にして人を助けるという意味があります。まさしく大河津分水・関屋分水の存在こそが、自らを犠^ぎ牲^{せい}にして人を助けることの象^{しょう}徴^{ちゆう}だと感じます。4月の殉^{じゆん}職^{しよく}者^{しゃ}慰^い霊^{れい}式^{しき}や現在の大河津分水令和の大改修でも多くの方が携^{たず}わり、尽^{じん}力^{りよく}されていることを実感しました。そういった方々のおかげで私達の安心・安全が守られていることに感謝する意味でこの言葉を選びました。



加茂市長 藤田明美

「恵みの川」 読み:めぐみのかわ

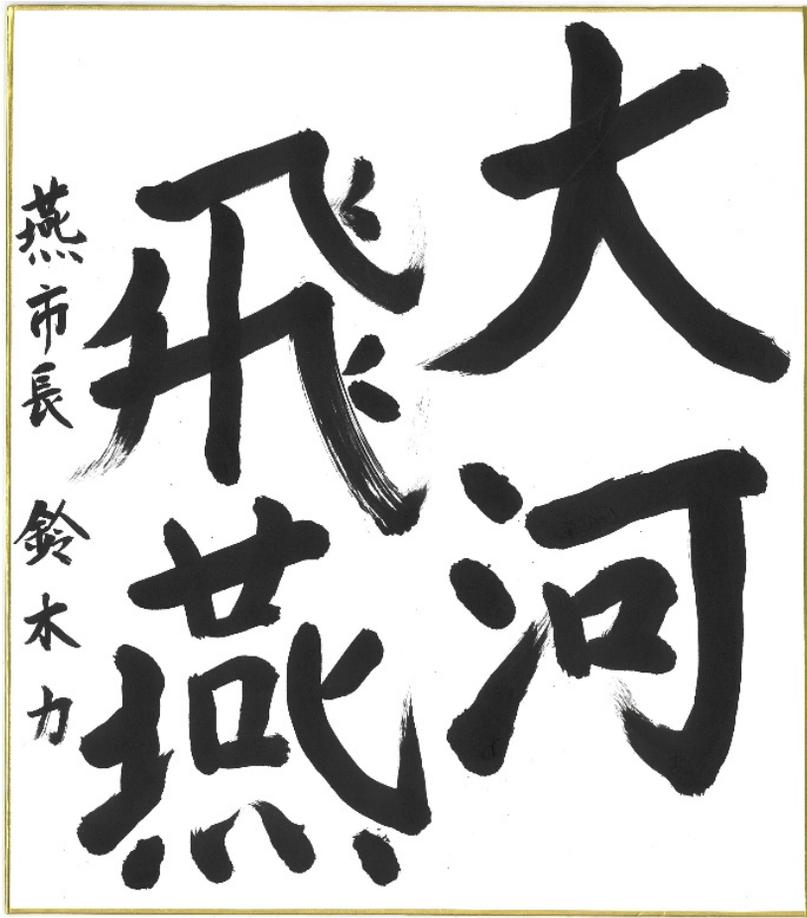
加茂市は信濃川が大きく蛇行^{だこう}するところに位置しています。信濃川が運んできた土砂が堆積^{たいせき}し、肥沃^{ひよく}な土壤^{どじょう}を作り、新潟県内有数の果樹産地となっています。私自身も小さい頃^{ころ}から桃畑^{もも}、リンゴ畑^{りんご}に収穫^{しゅうかく}に向かう両親、祖父母の背中を見て育ってきました。時に川は脅威^{きょうい}となるものではありますが、この豊かな土地、過去から続いている土地が未来にも続いていってほしいと願い、この言葉を書きました。



見附市長 久住時男

「川に学ぶ」 読み:かわにまなぶ

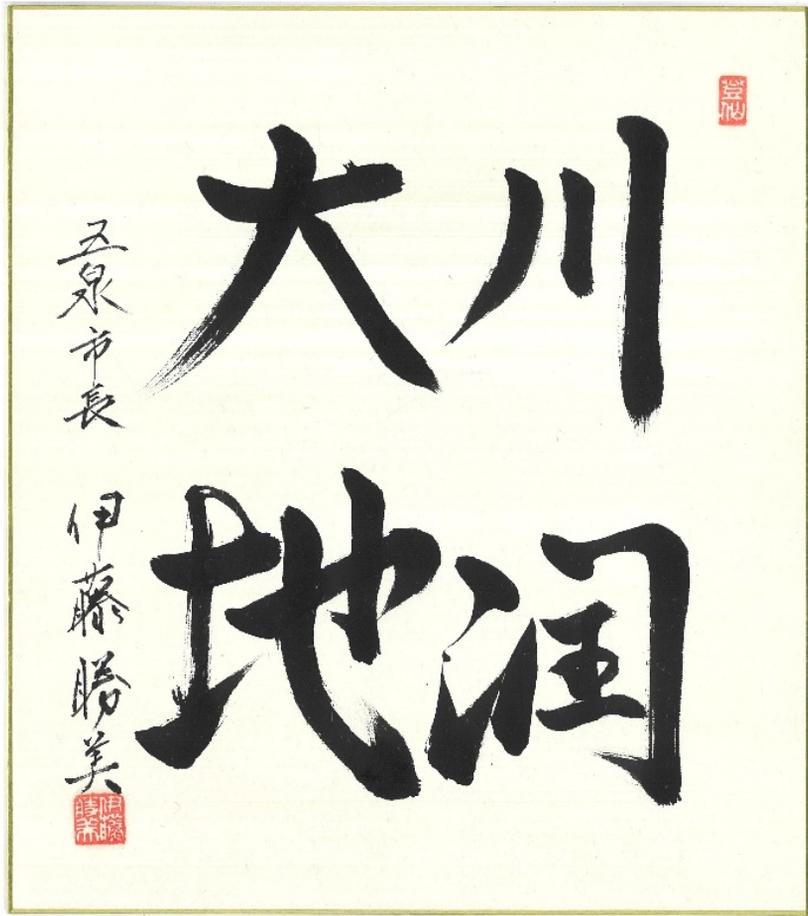
危険だからと、川を背にして暮らしていた時代もありましたが、故郷は川によって暮らし・生活が成り立っており、自然環境^{かんきょう}を含めた豊かさや恵み^{めぐみ}、その反面の危険の両方を暮らしの中で実際に学ぶべきだと感じています。学ぶという観点で川は大きな力を持っています。先人が大河津分水や関屋分水を築いてくれた中で私達は生きている、その点を再度学びの原点にしていただきたいために、この言葉を選びました。



燕市長 鈴木力

「大河飛燕」 読み:たいがひえん

大河津分水のおかげで越後平野が守られ、そのおかげで世界に冠^{かん}たる産業の街燕市が発展してきました。これまでの大河津分水の役割に感謝しつつ、その恩恵^{おんけい}を受けながら、これからも燕市は飛躍^{ひやく}していきます、という意味を込めました。大河津分水の地元として、大河津分水がなければ燕の発展はなかったという思いで、未来を担う若い人たちも巻き込みながら周年事業に取り組んでいきたいと考えています。



五泉市長 伊藤勝美

「川潤大地」 読み:かわは、だいちをうるおす

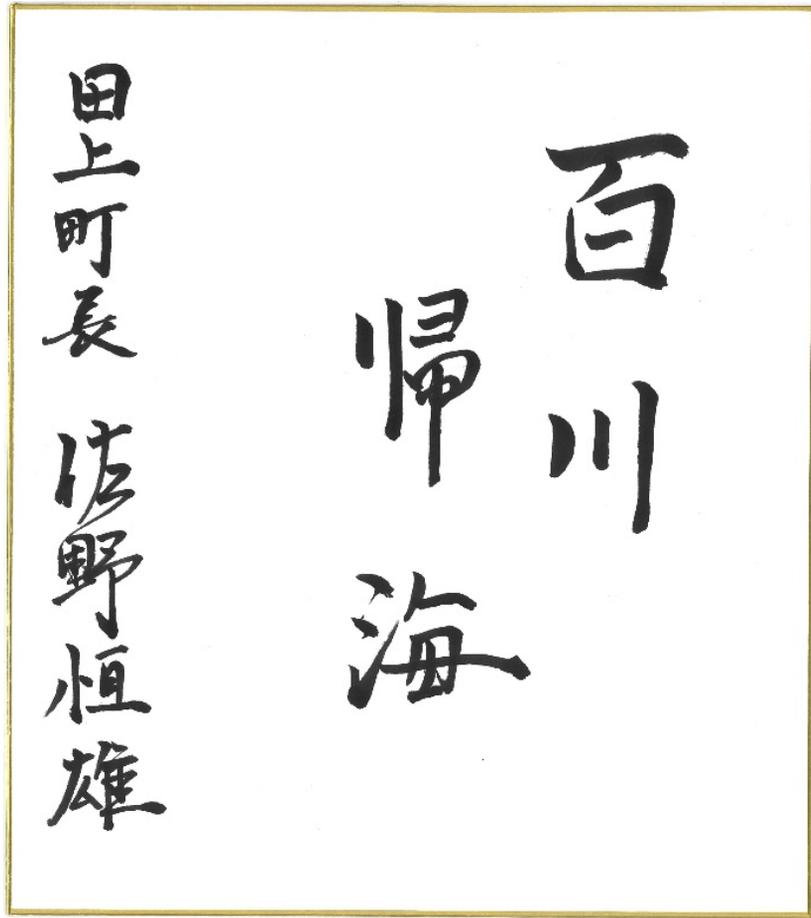
川は大地を^{うるお}し、土壌を^{どじょう}豊かにしてくれます。五泉の特産品、さといも帛乙女(きぬおとめ)をはじめ、豊富な水と肥沃な^{ひよく}大地に生み出される自然の^{めぐ}恵みに感謝します。



弥彦村長 小林豊彦

「未来の礎」 読み:みらいのいしずえ

実行委員会のスローガンにもあるように、信濃と越後のこれからの豊かな未来を担保するのは大河津分水と関屋分水であるということから、この言葉を選びました。



田上町長 佐野恒雄

「百川歸海」 読み:ひゃくせんきかい

中国の淮南子^{えなんじ}という古典から引用しました。百川はあらゆるすべての川を指し示し、そのすべての川が海に注ぎ込むことから、多くの離れ離れ^{ほなほな}になっているものが一か所に集まり、多くの人々の気持ちや考え方が一致^{いっち}することを意味します。